

93002R



NEW ZEALAND QUALIFICATIONS AUTHORITY
MANA TOHU MĀTAURANGA O AOTEAROA

Scholarship 2012 Japanese

9.30 am Monday 12 November 2012

RESOURCE BOOKLET

Use this Resource Booklet to answer **Section Two: Speaking** on pages 6–8 of Question Booklet 93002Q.

Check that this booklet has pages 2–4 in the correct order and that none of these pages is blank.

YOU MAY KEEP THIS BOOKLET AT THE END OF THE EXAMINATION.

SECTION TWO: SPEAKING (16 MARKS)

Spend about 30 minutes reading these texts and making notes in the spaces provided on pages 3 and 4.

Glossed Vocabulary

に 逃げる	to escape
どろぼう 泥棒	thief, robber
流れていました	was flowing
せんだい 仙台	Sendai, a place name
じょうほう 情報	information
たす 助ける	to assist

READING TEXTS

ツイッターで

東京に住んでいると、地震が来たら、すぐにでもツイッターで、みんなが「あ！いまのはそう？」や「地震だった！」や「今は大きかったよ！」と言います。地震がおきるとインターネットやツイッターで情報をすぐうけ、みんなのコメントが読めます。だから、最近の地震では、感じた時から自分の携帯電話でツイッターのコメントをアクセスして、みんなの経験を読みました。

「また地震が起きた！」

この同じ地震を経験しながら、他の町にいる人のコメントが読めるというのはすごいことだと思いました。地震が大きくなってきたので、僕も机の下に入りました。携帯電話のスクリーンを読みながら、怖いと思っていました。「あ、これはよくないね！」とか「いつまでかな。」などのコメントがあったから僕も心配になって、どうすると安全になるか考えました。その時にテレビと電子レンジが落ちてきたので、「あぶない！」と言いました。建物から逃げることも、机の下から出て、違うところに走るとは、怖くて考えられなかったのです。

地震が終わった時に机の下から出て来て、部屋の周りを見たら、泥棒が部屋に入ったように見えました。色々なものが、落ちてきたので、ドアまで行くのは難しいことでした。

手に携帯電話がまだあったから、また、ツイッターのコメントを見ました。川のようにたくさんさんのコメントが流れていました。本当に大きい地震だったかと思って、テレビをつけました。

医者^{いしや}のところで

その日は子どもが病気^{びょう}だったから病院^{びょういん}で子どもと待っていました。そこにあったテレビはすぐ地震^{じしん}のニュースになり、いやな一日^{いちにち}が始まりました。あ！地震^{じしん}だと思って、すぐ子どもの手を持って、外に走りました。建物^{たてもの}が壊^{こわ}れてしまうかもしれませんから、安全^{あんぜん}なところに行くことが最初^{さいしょ}にしなければならないことでした。医者^{いしや}や看護師^{かんごし}や他の病気^{ほか}の人はみんな、外^にに逃げ^{にげ}たのです。大きな病院^{びょういん}だから、上^{かみ}の階からはたくさんの人が出口^{でぐち}のほうに走ってきました。エレベーターは使えなかったから、人が人を助け^{たす}ながら、外^へへと安全^{あんぜん}なところを探^{さが}してくるのが見えました。

私の子どもはとても怖^{こわ}かったのでしょうか。大きな木のそばで泣^ないていました。外にある病院^{びょういん}の大きなサインや、駐車場^{ちゆうしやじょう}の車や、電気のワイヤーなどが強く右へ行ったり、左へ行ったりして、2、3分ぐらいだけだったでしょうが、もっと長く感じ^{かん}た地震^{じしん}でした。

The text continues on page 4

SPEAKING PREPARATION NOTES

Glossed Vocabulary

せんだい

仙台

Sendai, a place name

一番いい写真
しやしん

あね ぼく じしん しんばい ねむ けいけん
姉と僕には地震の後、心配で眠れない日が続いた時に経験した。いい話があります。

ぼく しやしん
僕たちの母親と父親の写真の話です。

あね だち しん せんだい りょうしん あんぜん
姉の学校時代の友達は、親切に東京から300キロの仙台まで、両親の安全をチェックしに
行ってくれました。写真もとったので、その写真を、優しい心を持って、僕たちのところに

持ってきてくれました。写真では母親の目が寂しく見えて、父親は笑っていて、

びょう うれ
病気やけがもしないで、生きていてくれて、嬉しかったのです。一番いい写真です。

SPEAKING PREPARATION NOTES

[For copyright reasons,
this resource cannot be
reproduced here.
See below.]

Source: <http://www.asahi.com/special/08001/images/TKY201112190619.jpg>